

新年度、育友会員の皆様へ

新型コロナウイルスへの対応、 そして専修大学創立 140周年に向けて



専修大学理事長 日高義博

ひだか よしひろ 1948年宮崎県生まれ。70年専修大学法学部卒業。75年明治学院大学大学院法学研究科博士課程単位取得退学。同年専修大学法学部講師、その後、助教授、84年に教授。88年法学博士。法学部長（2001～04年）、専修大学長（2004～13年）などを歴任。04年より法科大学院教授。06年より学校法人専修大学理事長。18年より名誉教授。専攻は刑法学。居合道5段。

育友会の皆様には、日頃から専修大学の運営に対してご支援とご協力をいただき、厚く御礼申し上げます。

昨年12月に発生した新型コロナウイルス感染症は、その後世界各地に広がり、パンデミックの状況にあります。日本国内においても感染者が増加し、感染拡大を食い止めるため様々な対応がなされています。本学におきましても、感染拡大を防止するため、残念ながら卒業式や入学式等を中止せざるを得ない事態となりました。本学学生をはじめ、育友会の皆様にもご心配をおかけしておりますが、授業の展開をはじめ大学運営の正常化に向けて、鋭意尽力しておりますので、皆様の力強いご支援とご協力をお願い申し上げます。

専修大学は、今年9月に創立140周年を迎えます。140周年記念事業の一つとしてキャンパス整備を進めてまいりました。神田キャンパスでは、この4月から「専修大学140年記念館（神田10号館）」が靖国通りにオープンしました。これまでの法学部に加え、生田キャンパスから移転した商学部、新設された国際コミュニケーション学部（日本語学科、異文化コミュニケーション学科）の学生たちが神田キャン

パスで学び始め、キャンパスの雰囲気が大きく変わりました。神田キャンパスでは、3学部が相互に連携し、幅広い知の発信がなされることを期待しております。生田キャンパスでは、昨年の経営学部ビジネスデザイン学科と文学部ジャーナリズム学科の新設に続き、経済学部にも現代経済学科と生活環境経済学科が新設され、国際経済学科との3学科体制となりました。生田キャンパスでは、3号館および2号館が建て直されたことで、新たな風が流れ始めました。

大学の進展には“オール専修の力の結束”が必要です。本学の21世紀ビジョン「社会知性の開発」を促進するには、教職員・学生だけでなく、育友会の皆様にも大学の活動の輪の中に入れていただきたいと思っております。育友会の皆様もオール専修の一員として本学のミッションを果たすために共にご尽力いただけますようお願い申し上げます。

専修大学は、創立以来、社会の屋台骨を支える有為な人材を多数輩出してまいりました。大学を取り巻く状況には厳しいものがありますが、「学生を基本に据えた大学づくり」をポリシーとして、大学運営を行ってまいります。今後とも、温かいご支援とご協力をいただければ幸いです。